

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年4月28日作成

学校法人華園学園藤ヶ丘幼稚園 園長 齋藤しのぶ

## 1. 本園の教育目標

### ◆教育目標

『つよいて よいて がんばるこ』

### ◆教育方針

- ・からだをきたえて元気な子どもになります
- ・誰にでも親切にする優しい子どもになります
- ・よく考えて一生懸命がんばる子どもになります

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育において育みたい資質、能力の三つの柱（知識及び技能の基礎・思考力・判断力・表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等）の視点から子どもの育ちを捉える。

インクルーシブ教育の実践。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取組状況・考察
1	教育課程・カリキュラムを見直し改善を図る	A	日々の保育を振り返り、職員間でコミュニケーションを取る時間が増えた。それに伴い、幼児期にふさわしい「遊び」について職員間での共有が活発化。行事や保育内容について見直しを図り、子どもの主体性を大切にする保育へ切り替えていくことができてきた。藤ヶ丘幼稚園の特色を精査し、継続して行うことと新しい試みが融合することを目指す。
2	教育の質の向上のために、園内研修を充実させる	A	園内研修の充実は当年で2年目。より計画的に行い、新しい研修の在り方を取り入れ、時間をうまく使える工夫なども行った。札幌市研究実践園事業を利用したり、コロナ禍ではあったが公開保育に職員が参加することができ、それを他の職員に知らせ、意見交換を行うなど職員の学びは充実していたと考える。また、区内幼稚園との情報交換等にも参加し、区内・市内幼稚園との連携の重要性を知ることができた。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	B	支援を必要とする子どもたちの増加、職員の対応に初めは苦慮した。支援を必要とする子どもたちがクラスの一員として参加できるよう、教室の環境を整えた。また、その子の気持ちに寄り添い、一緒に参加できる場合、個別対応が必要な場合を担当の職員と子どもで決めることを尊重した。支援検討会議の開催よりも職員の個の対応に任せた部分が多かった。園長が保護者と対応する場面が多く、保護者対応の難しさを感じた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、職員が子どもに向き合う姿勢が変わり、「遊び」の充実が図られた。子どもが主体的に遊ぶ姿が多くみられ、子ども同士のコミュニケーションも活発化している。それに伴い、子どもたちがどう遊びを展開していくのか、発展していくのかを職員が見届ける姿から、職員間でも保育の振り返りが活発化している。見守る職員間でも主体性が生まれている。子どもたちの成長に寄り添い、時代の変化に対応できるカリキュラムの編成をより変遷していく。</p> <p>インクルーシブ教育については、職員間での共有が図られ、全員で同じ対応を遂行することを心がけた。それぞれの目標を明確化し、支援を必要とする子どもたちも、それぞれの場面で活躍できる機会をたくさん設けた。その子に合った保育内容や目標を立てることで、集団での参加方法を見つけることができた。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的取組方法
1	環境	<p>特徴あるカリキュラムを精査し、「量より質」を大切にしていきたい。安全に実施できるようスキーについては園庭での学びに、和太鼓は子どもたちの意見を取り入れ「やってみよう」ものに挑戦することとする。</p> <p>限られた施設や設備ではあるが、屋外屋内ともに子どもたちが十分に遊びこめる、挑戦できる環境を今後も検討し、工夫していく。</p> <p>隣接する保育園との連携が課題。共有スペースをお互いが刺激し合いながら、園の垣根を越えて一緒に遊びを行いたい。互いの情報共有がうまくいかないことが多いため、主任同士の話し合いが、他の職員に伝わる体制作りが急務である。</p>
2	安全管理	<p>園舎・園舎設備の老朽化が課題。</p> <p>電気系統や防犯対策、園舎設備の点検を行った。電気系統については照明設備をLED化。その他、耐久年数を考えた改善が必要である。今後の施設の在り方を含め「準備委員会」を立ち上げ、今後の方針を検討していきたい。</p>
3	幼保小接続	<p>幼稚園・小学校が参加する研修を機に窓口が開き、職員間のつながりが持てたことは大きな収穫となった。藤野南小学校の先生が、園を訪問する機会を設けることが出来た。また、幼稚園職員が小学校の普通の授業の様子を参観することが実現。卒園式には来賓として教頭先生をお招きすることもできた。接続の上で、年長児の理解につながったのではないかと思う。今後は、幼稚園と小学校の先生が連携を図り、交流を計画的に行っていきたい。</p>
4	保護者への発信 保護者支援	<p>保護者アンケートを行った。カリキュラム内容の変更や目指すべき幼稚園像を示した結果、ほとんどの保護者が子どもたちの楽しんで通う姿に満足していると思われる。しかし、特色ある教育内容に期待していた保護者も一定数いることを知った。「遊び」が意図を持って行っていることが保護者には伝わっていない部分もうかがえる。保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちや遊びの良さ、仲間と協力し合う姿をしっかりと伝えていかなければならない。また、コロナ禍では子育ての悩みを抱えている家庭も多く、胸の内を聴いてほしい保護者が多いのではないか。子育て経験のある職員が多くなっていることを踏まえ、上手に心の内を聞いてあげたい。</p>

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

令和5年3月8日学校関係者委員会を開催、意見交換を行う

小学校との交流を大変喜んでいました。

子どもたちは地域の宝であること再確認。

コロナの収束を受けて、地域との交流を活発化させてほしい。地域の子育てサロンと幼稚園・保育園がタッグを組んではどうか。地域の子育てサロンの利用者が少ない、幼稚園での親子教室の参加状況を考えると情報の共有を図りたい。地域に貢献できる施設であってほしい。

→この評価を受けて、より良い運営にしていきたいと考える。園長